

日本精神科診断学会

会員の皆様

このたび、日本精神科診断学会の理事長を拝命いたしました、滋賀医科大学精神医学講座の尾関祐二でございます。その責任の重さを感じておりますが、会員の皆様のお力添えをいただきながら、誠実に務めてまいりたいと存じます。

本学会の前身である精神科国際診断基準研究会は、わが国の精神科臨床に即した診断分類と診断基準を検討し、精神医学の国際交流と精神医療の充実につなげたいという、先達の強い願いのもとに発足しました。

研究会では、全国の大学や施設から多くの精神科医が集い、DSM-IIIの翻訳と実地試行、疾患圏ごとの診断分類・診断基準の検討、さらにはICD-10の翻訳と実地試行などに取り組んできました。こうした活動と10年間にわたる研究集会の積み重ねを経て、1991年に日本精神科診断学会へと移行しました。診断基準への理解を深め、その意義と課題を臨床の現場から問い直してきた本学会の歩みを、大切に受け継いでまいります。

精神科診断は、患者さん一人ひとりの状態や置かれた状況を理解し、適切な治療と支援を考えるうえで重要な基盤です。診断基準を目の前の患者さんの理解にどのように生かすかを、皆様とともに考え続けていきたいと存じます。診断が果たす共通言語としての役割を大切にしながら、一人ひとりの生活や経過にも目を向け、臨床に役立つ診断のあり方を検討してまいります。

そのためにも、専門領域や世代の異なる会員の皆様が、それぞれの経験や考えを持ち寄り、互いに学び合える場を大切にしていきたいと思います。また、学会での議論や得られた知見を、医療者はもとより、広く社会にも分かりやすく伝え、精神科診断への理解を深めていただけるよう努めたいと考えております。

学会の運営にあたっては、理事・監事の皆様と協力し、会員の皆様の声に耳を傾けながら、一つひとつの課題に丁寧に取り組む所存です。先達が築いてこられた学びと交流の場を、皆様とともに次の世代へつないでまいりたいと存じます。今後ともご指導とお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年10月吉日

日本精神科診断学会
理事長 尾関祐二